

小学校建設用地の

確保に努力

奈路地区 市政懇談会



市の北部奈路地区で一月十日夜、市政懇談会が開かれました。会場の奈路公民館(川村雪子館長)には住民四十人の方が参加、市側からは小笠原市長、鈴江教育長、関係課長らが出席し、地区の抱える問題について話し合いました。

まず小笠原市長が市政報告——

開発公社へ大きな借金を抱えており、財政は大変厳しい状態です。財政再建審議会での意見をj得て、再建へ努力しているところで、同和対策については、小集落地区改良事業を導入し、現在野中地区で三割、前浜地区で五割の進み具合となっております。

市政の柱として、新しく教育施設の充実と

奈路小の改築、水不足の問題など熱心に話し合った

企業誘致を上げました。うち教育施設については、一年に二校ぐらいのテンポで、老朽校舎の改築を進めています。企業誘致については、比江の残地を利用し工業団地化を目指しています。具体的には、ミロク機械の進出は八分通り決まり実現する運びとなっております。本市は空港のジェット化、南圏インターチェンジの工事も進み、空と陸の玄関として、輸送網の整



備が進んでいます。これらの条件を生かし、以上の四つを市政の柱として取り組んでいきたいと思えます。

話し合いの内容は……

○奈路小学校の改築はいつごろになるか。

●計画としては、部分改築でなく全面改築を考えている。校舎は二つの部分からなっており、一方は大正十一年に、他方は昭和三十一年に改築されている。前者はすぐに改築しなければならないが、後者については危険校舎の指定を受けていないので、改築となると文部省の補助が受けられない。早急に、新しい部分について、文部省の耐力検査を受けたい。

用地については、現在の面積は二百平方メートルの規模で、実際は七千平方メートルが必要で足りない。移転の二つの候補地を見ながら、そこは七千平方メートルが確保できる。六十年には用地確保に向けて努力していきたい。改築の時期は、新しい部分危険校舎に指定される時期に関係してくると思う。

○水不足の問題は深刻だ。市としてどのように対応を。
●昭和五十六年から地元で話し合いを進め、水源地問題についても協議をしてきた。水道局としては、

全体として使っていた方向でない……。個々の対応はできないので、地区としての統一見解が必要だ。とは言っても、意見の統一が難しいとの声もあり、小規模などところについては、簡易的な水道での対応も考えられ、水源地が調整できるか調査も必要だ。

○北陵中はナイター設備がされているが暗い。使用している私たちも援助はするので、照明塔の増設を考えてほしい。

●現状は十分理解しています。照明塔を増やすとかなりの費用もいるが、六十年の予算が確保できるよう努力したい。電気料は、使用者に負担してもらおうことになると思う。

○新しいし尿処理場建設の進み具合はどうか。稲生地区での進展は。●現在お願いに伺っているが、スムーズには進んでいません。六十年中中には、決定できるよう鋭意努力したい。

○黒滝からのバキュームカーは、狭い道でスピードを出しており危険だ。業者へ注意してほしい。●そういう声は聞いており、再三に業者との会もあるので、厳重な注意をしたい。